



■ランドスケープの若い技術者へ～庭園見学会・講演会

初夏を思わせるような天候の下、井上剛宏さん(株植芳造園)を講師に迎えた今回の庭園見学会は、“大河内山荘”、“個人邸(井上敏宏さん)”を見学した後、「ランドスケープにおける技術と技能」をテーマに、若手設計者へ熱いメッセージが込められた講演会が行われました。

■名優が生涯をささげた映画的庭園～大河内山荘

国指定史跡・京都府京都市右京区嵯峨小倉山田淵町 8

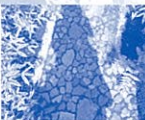
時代劇の大スター大河内傳次郎。敬虔な仏教信者でもあった彼が、小倉山の地に出演料を余すことなく費やし、創りあげた庭園。

狭い空間に巧みに配置された園路や実生の植物を混ぜ込まれた刈込み、自然の姿を切り取ったような雑木の庭など、嵐山の景色に溶け込んだ様子は、まさにガイドブックに書かれた通り、いつまでも“消えることのない美”でありました。



■井上敏宏氏の手がけた個人庭(非公開)

場所を移し“個人邸(井上敏宏氏)”,の庭は、建物を引き立たせる雑木の庭で、木々の中を玄関まで続くアプローチには奥行き感があり、コケやシダ等の下草と適所に配置された景石が更に雰囲気盛り上げ、住んでみたくなる空間が創りあげられていました。



■講演会「ランドスケープにおける技術と技能」

講演会では、“造園”にとって当たり前のことである、緑を使って魅力的な世界観を描くために必要な技術、技能について、“造園”という言葉に込められた意味など、今後の設計において役に立つ貴重なお話を数多く聞くことができました。また、今この冬の時期をチャンスと捉え、来るべき時のために技術と技能を蓄えておくよう造園業界の将来を見据えた力強い言葉もいただきました。

当たり前の場所に当たり前のものを自然に作ることの難しさ、クライアントの要望を具現化するための引き出しの多さ、素材に頼らず技で魅せるための技術など、設計に偏らず施工監理と一体となつてこそ“造園”本来の姿が見えてくることを考えさせられ、建築や施主と存分に戦える武器を身に付けることが“造園業界”を背負っていく若手の使命だと実感しました。

◇後記◇講演会での内容を全てお伝えしたいのですが、どれをとっても参考になる内容ばかりで、拾い上げるとキリがありません。みなさんも是非一度、実際に参加・体験されることをお勧めします。